

## 【大項目3】教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

- 1 評価事業は、「第二次富士市教育振興基本計画 前期実施計画」（令和4年度～令和8年度）の重点事業であり、全29事業を自己点検・評価の対象としている。
- 2 総合評価は、取組実績や指標を踏まえ、総合的に判断した結果である。

＜総合評価の段階＞	
A	：目標をはるかに上回る
B★	：B評価の中、明確な工夫・改善があり、実績が上がったもの
B	：概ね目標を達成
C	：あまり達成できていない

- 3 指標欄には、「第二次富士市教育振興基本計画 前期実施計画」における各事業の計画最終年度の目標値と、当該年度の目標値及び実績を掲載している。なお、指標による評価は総合評価の一部である。

(例) 自ら命と体を守るための安全教育の充実

点検・評価対象年度の目標と実績

◆指標		R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
「緊急時に自分の命を守るために適切な判断をとることができる」と回答した児童生徒の割合	目標	小 60% 中 70%	小 100% 中 95%			↑小 100% ↑中 100%
	実績	小 94.0% 中 88.4%				

「令和4年度 富士市の教育行政」において掲げた単年度目標。ただし、「第二次富士市教育振興基本計画 前期実施計画」において掲げた最終年度の目標を達成し、上方設定した数値には↑を付記する。

前期実施計画最終年度実績

- 4 全29事業の総合評価の内訳は次のとおりである。

総合評価	A	B★	B	C	合計
事業数 (件)	4	4	21	0	29
割合 (%)	13.8	13.8	72.4	0	100.0

《方針1》 明日を拓く人材を育成する教育基盤の推進

〔施策の柱1〕 新たな時代に対応する取組の推進

施策名	① Society5.0に対応する教育の充実																							
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P.21																		
	B★																							
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事*による研修やアフター5研修、ICT支援員*による校内研修等において、教職員の資質能力向上の機会、及び教職員同士の情報交換の時間を確保した。</li> <li>情報教育研究委員会を開催し、市内の学校での実践を共有するとともに、その情報を各学校へ周知した。</li> <li>市内43校への指導主事訪問等を通してICTを効果的に活用した授業等の視点を示し、各校での実践や授業改善につなげる指導助言を行った。</li> <li>端末の故障率が高く、精密機器を扱うリテラシーの育成が課題である。</li> </ul>																								
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事による研修やアフター5研修、ICT支援員による校内研修等を充実させ、教職員が自信をもって指導できるようにする。</li> <li>精密機器を丁寧に扱うことや、情報リテラシーの育成について継続的に指導していく。</li> <li>岩松中学校及び広見小学校の市指定研究発表を通し、効果的なICT活用についての好事例の情報を共有する。</li> <li>個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業におけるICT活用について、研究を進める。</li> </ul>																								
<p>◆指標</p> <p>教員のICT活用指導力の状況において、「できる」「ややできる」と回答した教員の割合</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R 4</td> <td>R 5</td> <td>R 6</td> <td>R 7</td> <td>R 8</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>85%</td> <td>85%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>85.9%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	目標	85%	85%			100%	実績	85.9%				
	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8																			
目標	85%	85%			100%																			
実績	85.9%																							

施策名	② 学びの連続性を意識した教育の推進																							
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P.22																		
	B																							
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連携推進員*研修会を2回開催し、グループワーク等の活動から、各中学校区の小中一貫教育の課題の洗い出しを行い、令和6年度の完全実施に向けて、理解を深めた。</li> <li>小中連携推進員対象のアンケートでは、「各中学校区の連携推進員同士の関わり合いは、自身の学びにつながっていると思う」は、「はい」「どちらかといえばはい」を合わせた肯定群が100%となり、小中一貫教育の推進業務の充実が、連携推進員の研修につながっているといえる。</li> <li>教職員の各種研修会の会場を「富士川第二小中一貫校 松野学園」に設定することで、同校の施設一体型小中一貫教育に関する研究成果を披露し、他校の小中一貫教育の推進を支援した。</li> <li>市内小中学校の教職員を対象に、小中一貫教育に関する広報紙「小中一貫つうしん」を発行したが、小中一貫教育の重要性について周知が十分でない学校もあった。</li> <li>園小接続に関する各種研修会に参加し、アプローチカリキュラム*を含めた各園での園小連携に関する取組について理解を深めた。</li> </ul>																								
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度の全中学校区での小中一貫教育完全実施を控え、「小中連携・一貫教育基本方針」策定からの歩みや、具体的な各校の取組等を掲載したリーフレット「富士市における小中一貫教育について（仮称）」を作成し、小中一貫教育の完全実施の周知を図る。</li> <li>連携推進員研修会を継続して開催し、各校の小中一貫教育に関する取組を支援する。</li> <li>園小接続をさらにスムーズに進めるため、幼保園での研修会に積極的に参加し、スタートカリキュラム*の充実につなげる。</li> </ul>																								
<p>◆指標</p> <p>小中を一貫した教育活動が、子どものよりよい学びと生活につながっていると感じる連携推進員の割合</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R 4</td> <td>R 5</td> <td>R 6</td> <td>R 7</td> <td>R 8</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>80%</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>								R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	目標	80%	100%			100%	実績	100%				
	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8																			
目標	80%	100%			100%																			
実績	100%																							

施策名	③ 地域とともにある学校づくり						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 23	
	B						
<p>◆取組実績（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 8 校が新たに学校運営協議会を設置し、全小学校がコミュニティ・スクール*となった。中学校 2 校と合わせて 29 校がコミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりの研究を進めている。</li> <li>・学校運営協議会では、授業参観やボランティア活動を通して委員から様々な意見が出されるようになり、回数を重ねるごとに熟議が進み、具体的な活動が検討・実行されている。</li> <li>・地域と学校を結ぶコミュニティ・スクールディレクター*の定例会を年 6 回開催し、協議会の円滑な運営や地域と学校の連携・協働についての情報交換や研修を行い、各校の実践に生かせるようにした。</li> <li>・各校からの便り等を通じて地域や学校に周知がなされ始めているが、周知が十分でない協議会や周知していても、ボランティア増員に課題を感じている協議会もある。</li> </ul>							
<p>◆次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度には、中学校 7 校に新たに学校運営協議会を設置する。</li> <li>・教育委員会からコミュニティ・スクールについて情報発信をし、学校・保護者・地域がより連携を取りやすくなるよう働きかける。</li> <li>・コミュニティ・スクールディレクターがより活動しやすくなるように、成果と課題を把握・分析し、改善を図っていく。</li> </ul>							
◆指標 保護者や地域の人との協働による活動を「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
目 標			小 81.8% 中 63%	小 96% 中 70%			小 100% 中 100%
実 績			小 92.5% 中 68.7%				

**〔施策の柱2〕 誰一人取り残さない社会を目指した教育の充実**

<b>施策名</b>	① SDGs*達成に向けた取組の推進						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 25	
	B						
<b>◆取組実績（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリータウン提携を結ぶ清水エスパルスから寄贈を受け、SDGs 啓発を目的とした下敷きを市内小学校に配布し、「子どもの権利条例」を知るきっかけになるようにした。</li> <li>・環境問題を取り上げた子供用啓発小冊子「3R+ってなあに？」を配布し、GIGA タブレットからも閲覧できるようにした。</li> <li>・「静岡県 SDGs スクールアワード 2022」への参加を市内の学校に呼びかけ、岩松北小学校の総合的な学習の時間に取り組んだ実践が奨励賞に選出された。</li> <li>・各学校で SDGs に関する工夫した取組を行っているが、それぞれの学校の実践が共有されにくい。今後さらに広がりのある活動へと展開していくために各学校の実践やアイデアを互いに参考にし合う環境が重要である。</li> </ul>							
<b>◆次年度への展望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清水エスパルスとの事業を継続し、下敷きの配布だけでなく選手との関わりを生かした企画を行い、子供たちへの更なる意識の向上につなげる。</li> <li>・ICT を活用するなどして、各学校で取り組んでいる SDGs に関する実践を取り上げ紹介し、各学校でより独自性のある取組を展開していけるようにする。</li> </ul>							
<b>◆指標</b> 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合							
			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		小 45% 中 46%	小 60% 中 50%			小 80% 中 70%
	実 績		小 47.2% 中 36.6%				

<b>施策名</b>	② 特別支援教育*の充実						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 26	
	B						
<b>◆取組実績（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮を要する児童生徒の増加に伴い、特別支援教育全般の理解や支援方法の獲得が必要となっており、従来のサポート員*の人数的拡充から個々のサポート員の力量向上に努めるべく、指標を変更した。</li> <li>・提携している静岡大学から特別支援教育の最新かつ高い見地からの講演を受けることで、サポート員の個々のレベルアップを図った。</li> <li>・こども療育センター、幼稚園・保育園・こども園、保育幼稚園課などとの連携により、早期から就学支援への対応を行った。また、みはら園の年中児の保護者対象の説明会では、資料を全面的に見直し、就学先の決定、就学支援の進め方についてより詳しく説明し、理解を得た。</li> <li>・保護者や小中学校からの相談に対し、支援に必要な情報を収集し、小1支援、読み書き支援、巡回相談や通級指導教室など適切な支援につなげた。教職員に対しても、アフター5講座で専門的知識を学ぶ場を設けた。</li> <li>・計画的に特別支援学級*を訪問し、授業参観と担任との懇談を実施して、授業や教室環境、記録の保存について指導・助言を行った。また、専門職員も各小学校の特別支援学級を訪問し、児童生徒の進路についてのアドバイスをを行った。</li> </ul>							
<b>◆次年度への展望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度まで特別支援サポート員の人数の拡充を図ってきたが、特別な支援を要する児童生徒は年々増加し続けている。医療的ケア、聴覚過敏等への配慮などそれぞれのニーズも多様化しているため、サポート員の人数をさらに増員していく準備（予算要求）を行う。</li> </ul>							
<b>◆指標</b> 特別支援サポート員等の研修満足度（5段階評価の平均値）							
			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
	目 標		3.9	3.9			4.1
	実 績		3.5				

<b>施策名</b>	<b>③ 外国人等の児童生徒への支援</b>							
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 27		
	B							
◆取組実績（成果と課題）								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・編入したばかりの外国人児童生徒に初期支援を 20 件、継続支援を 7 件実施し、学校生活への適応支援をした。</li> <li>・要請のあった小中学校 31 校に、4 か国語の母語支援員を派遣し、授業での個別支援を実施した。</li> <li>・国際教室*には 51 人（吉原小 36 人、富士見台小 15 人）の通級があり、個に応じた日本語指導や学習指導を実施した。しかし、近くに国際教室がないため通いたくても通えない外国人児童生徒もいる。</li> <li>・日本語指導が必要な児童生徒のうち、55.1%に「特別の教育課程」を実施した。</li> </ul>								
◆次年度への展望								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度から、田子浦小に国際教室を新設し、希望する児童生徒に週 2 回指導を行う。</li> <li>・支援員や、「特別の教育課程」の日本語指導を行う日本語指導教諭の研修機会を確保する。</li> <li>・多言語化が進んでいるため、学習者用タブレット端末や「やさしい日本語」での支援を促進する。</li> </ul>								
◆指標 「特別の教育課程」実施の割合				R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
			目標	60%	60%			70%
			実績	55.1%				

<b>施策名</b>	<b>④ 学びのセーフティネットの充実</b>							
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 28		
	B★							
◆取組実績（成果と課題）								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学・面談総数 184 件中、「ステップスクール・ふじ」を利用した児童生徒 126 人となった。うち中学生は 94 人で、23 人が 3 年生だった。</li> <li>・それぞれの家庭に合わせ、開所時間を早めるなど、柔軟に対応し、利用者が前年度より 38 人増えた。</li> <li>・9 月に全日制の私立高校を招いて進路説明会を開催した。</li> <li>・9 月と 2 月に通信制高校等が参加する合同相談会を企画した。</li> <li>・合同相談会は 124 組 171 人の参加があり、1 回開催だった前年度ではなく、前々年度と比べ 32 組 4 人増えた。</li> <li>・3 年生全員が、全日制や通信制高校等、自分なりの進路を見いだした。</li> </ul>								
◆次年度への展望								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人、個に応じた支援を進めて社会的な自立を目指していく。</li> <li>・児童生徒が自ら決める教科の学習や活動を通して、様々な学びに取り組めるよう臨床心理士やサポート員を配置し支援していく。</li> <li>・自分なりの進路が見いだせる機会と場所を提供するため、進路説明会や合同相談会を開催し、参加を促していく。</li> </ul>								
◆指標 ステップスクール・ふじを利用した中学 3 年生のうち、自分なりの進路が見いだせた割合				R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
			目標	100%	100%			100%
			実績	100%				

**〔施策の柱3〕 安全・安心で充実した教育環境の提供**

<b>施策名</b>	<b>① 安全・安心な学校施設整備の充実</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 30	
	B						
◆取組実績（成果と課題）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内運動場リニューアル工事に合わせて、吉原小学校、吉永第一小学校、岩松小学校及び吉原第一中学校の屋内運動場にバリアフリートイレを設置した。</li> <li>・在籍している要配慮生徒に対応するため、富士南中学校の校舎内にバリアフリートイレを設置した。</li> </ul>							
◆次年度への展望							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市学校施設長寿命化計画*に基づき、屋内運動場については計画的にバリアフリートイレの設置を実施していく。また、校舎内については在籍する要配慮児童生徒に合わせて、適時、バリアフリートイレの整備について検討をしていく。</li> </ul>							
◆指標 バリアフリートイレの設置率			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	60%	65%			80%
		実績	61.9%				

<b>施策名</b>	<b>② より良い教育環境の維持・整備</b>						
総合評価	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	第二次教育振興基本計画 P. 31	
	B						
◆取組実績（成果と課題）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸小学校、鷹岡小学校、天間小学校、元吉原中学校、須津中学校校舎の屋上防水改修を実施した。</li> <li>・富士第一小学校、広見小学校、天間小学校、鷹岡中学校、田子浦中学校校舎の外壁改修を実施した。</li> <li>・吉原小学校、吉永第一小学校、岩松小学校及び吉原第一中学校の屋内運動場の屋根・外壁改修、トイレの乾式化等の改修を実施した。</li> </ul>							
◆次年度への展望							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市学校施設長寿命化計画に基づき、校舎の屋上防水・外壁改修、屋内運動場のリニューアル改修を確実に実施していく。</li> </ul>							
◆指標 長寿命化計画の進捗率			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
		目標	25%	47%			100%
		実績	24.5%				